



the most beautiful
villages
in japan

木の産業づくり

2023.11.21 日本で最も美しい村連合大学2023

長野県木曽町



木曽町の概要

木曽町は、平成17年11月1日に木曽福島町・日義村・開田村・三岳村の4町村が合併して誕生しました。

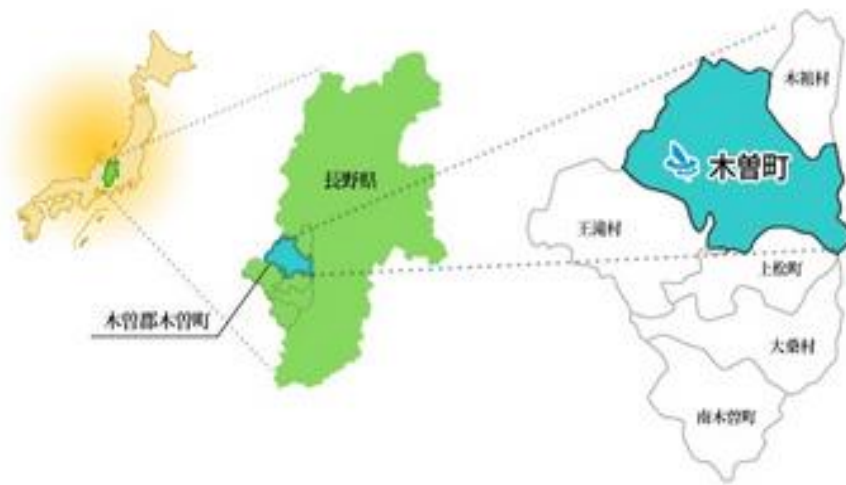
木曽町は長野県の南西部に位置し、県内町村では最大面積476.03平方kmで総面積の90%を山林が占める緑豊かな山間の町です。

西に木曽御嶽山、東には中央アルプス木曽駒ヶ岳がそびえています。町の中央には木曽川が流れ、その流域に沿って国道19号とJR中央本線（中央西線）が走っています。

木曽町全体としては、夏と冬、昼と夜の寒暖の差が大きい内陸性気候で、四季折々の自然風景が人々の暮らしや生活環境を支えています。

DATA

- 面積/ 476.03km²（東西31.7km 南北26.2km）
- 標高/ 774.80m（木曽町役場）
- 総人口/ 10,070人（令和5年11月1日現在：登録人口）
- 世帯数/ 4,802世帯（令和5年11月1日現在：登録世帯数）
- 高齢化率/43.94%



【町章】

木曽町「キ」をデザイン化しました。
青は、澄みきった空気と水、
豊かな自然を表現しています。



【シンボル】 御嶽山

裾野には、多くの動植物が生息し大自然が広がっています。
木曽町の暮らしはいつも御嶽山と共にあります。

木曽町の地域資源

①開田高原の木曽馬

古くから木曽で飼育されていた**木曽馬**は日本在来馬の一つで**長野県の天然記念物**に指定されています。

人々は馬とともに暮らし、多くの馬を産出しました。

戦争や農業の機械化により一時は**絶滅を危惧された**木曽馬ですが、保存会が**種の保存**に取り組んでいます。

木曽町では木曽馬の利活用方法として**ホースセラピー**を行っています。

ホースセラピーはアニマルセラピーの一つで、馬とのふれあいが心にやすらぎを与える心理的効果と乗馬によるバランスの良い有酸素運動の身体的効果が期待されています。

中型の馬であり、比較的小となしい気性の木曽馬はこうしたホースセラピーに適しており、幅広く希望者を受け入れ、**治癒と癒しの場**と提供しています。

町では木曽馬だけでなく、森林や温泉などの資源もセラピーに取り入れ複合的な健康づくり、**ヘルスツーリズム**を展開しています。



木曽町の地域資源

江戸時代、木曾はちょうど**中山道の間地点**であり、飛騨街道とも通じていたことから街道の要であった**福島関所**がおかれ、多くの武士文人が当地を行き交い、東西の文化を伝えました。

・木曾踊り

・みこしまくり

・福島宿と宮ノ越宿

宮ノ越宿は**木曾義仲**がこの地で旗挙げしたことから義仲にまつわる史跡が多いことが特徴となっています。往時の面影を残す**本陣客殿**や**旧旅籠の再生**を軸とした地域の活性化を行っています。



木曽町の地域資源

③御嶽山麓の農村風景

麓から望む雄大な**御嶽山**は地域の誇りであり、その姿は美しい風景を生み出しています。

御嶽山は**日本百名山**にも数えられ、**信仰の地**として古くから人々を引きつけてきました。

神官など一部の人が精進してからでないと登れない山でしたが、江戸時代になると一般に開放されました。信者が建てた**霊神碑は2万以上**にのぼるともいわれ、荘厳な雰囲気醸し出しています。

現在では信者だけでなく登山客も多く、夏山シーズンはにぎわいを見せます。観光、宿泊など地域産業に寄与し、人々の生活を支えてきました。

平成27年に発生した水蒸気噴火では、人的被害も生じるなど大規模な火山災害となり、木曽町の観光業を中心とする地場産業は大打撃を受けました。火山である御嶽山には恩恵と脅威の異なる側面が同居しています。

御嶽山がもたらした文化歴史とその脅威を啓発する**木曽町御嶽山ビジターセンター**を建設し、御嶽山の農村風景を保存していきます。



木曽町の取組み紹介

木曽町まちづくり活動推進事業補助金

○地域の伝統や文化に新しい息吹を吹き込み、活力ある町を創造するため、住民が主体となって進めるまちづくり活動を支援するもの。

(1) 地区活性化事業	事業内容	地区の活性化に効果があると認められるもの
	補助率及び限度額	事業に要する補助対象経費の3分の2以内で300,000円が限度
(2) 美しい村運動推進事業	事業内容	「日本で最も美しい村」運動の推進に効果があると認められるもの
	補助率及び限度額	事業に要する補助対象経費のうち、300,000円が限度とする
(3) 一般事業	事業内容	特に町全体の活性化に効果があると認められるもの
	補助率及び限度額	事業に要する補助対象経費のうち、500,000円が限度とする

過去の実施事例

事業名	事業内容	事業区分
開田高原の潤いある 景観づくり事業	開田高原の美しい景観づくりのため、ガードレールのペンキ塗りや支障木の伐採等を行う。	美しい村運動推進事業
景観に配慮した ゴミステーション整備事業	景観に配慮した木製ゴミステーションの設置	美しい村運動推進事業
きそだに（木曽谷） マーケット	町内の農産物やクラフト作家の作品、パンなどを販売する出展者を募りマーケットを開催する。	一般事業

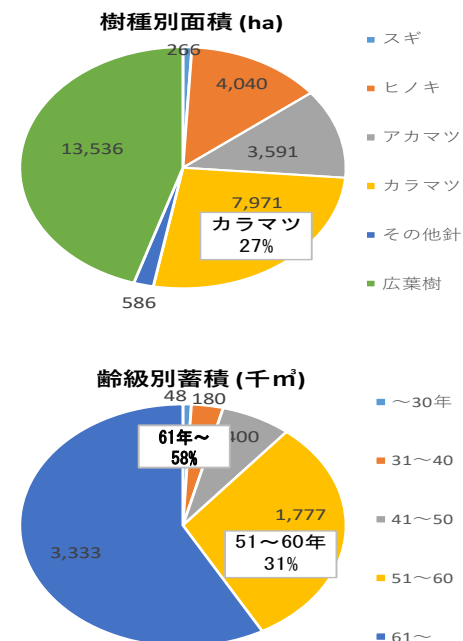
開田高原の潤いある
景観づくり事業



木曽町の森林資源について

現状

- ・森林面積は42,947haと町域の90%以上を占めている。
- ・森林面積のうち民有林の面積は30,177ha（約70%）。民有林の樹種別面積は、針葉樹は16,464ha、うちカラマツが7,971haと一番多く、次にヒノキが4,040ha、アカマツが3,591haと続いている。広葉樹は13,535haとなっている。
- ・民有林のうち私有林は91%で、そのうち個人私有林は59%と高い割合となっている。
- ・齢級別では、利用可能な12齢級（60年以上）が約6割、50年生以上では9割を占めている。



課題

- ・山林の境界不明確、不在村地主の存在、相続登記の遅延・・・etc
- ・森林と住民の関わりが薄れ、特に個人私有林は管理が手遅れた山林が増加。有害鳥獣の被害も増加傾向。
- ・利用可能な高齢級森林が多いが十分活用されていない。積極的に利用しながら、更新を図る必要がある。
- ・林業者の高齢化、担い手不足（林業の専門高等教育機関があるが、町内への就業者が少ない）。・・・等

森林に対する取り組み

①森林の公益的（多目的）機能を高度に発揮させるための森林整備

豊かな森林を維持し清らかな水や空気、生態系を育み、災害等から人々の生命や暮らしを守る。



②木曽の木ブランドの発信と木の産業創出・雇用創出

林業・木材産業の活性化及び地域内経済循環の仕組みを強化し、町民の豊かな暮らしを目指す。



木曽の木ブランドの発信と木の産業創出・雇用創出

主な取り組み

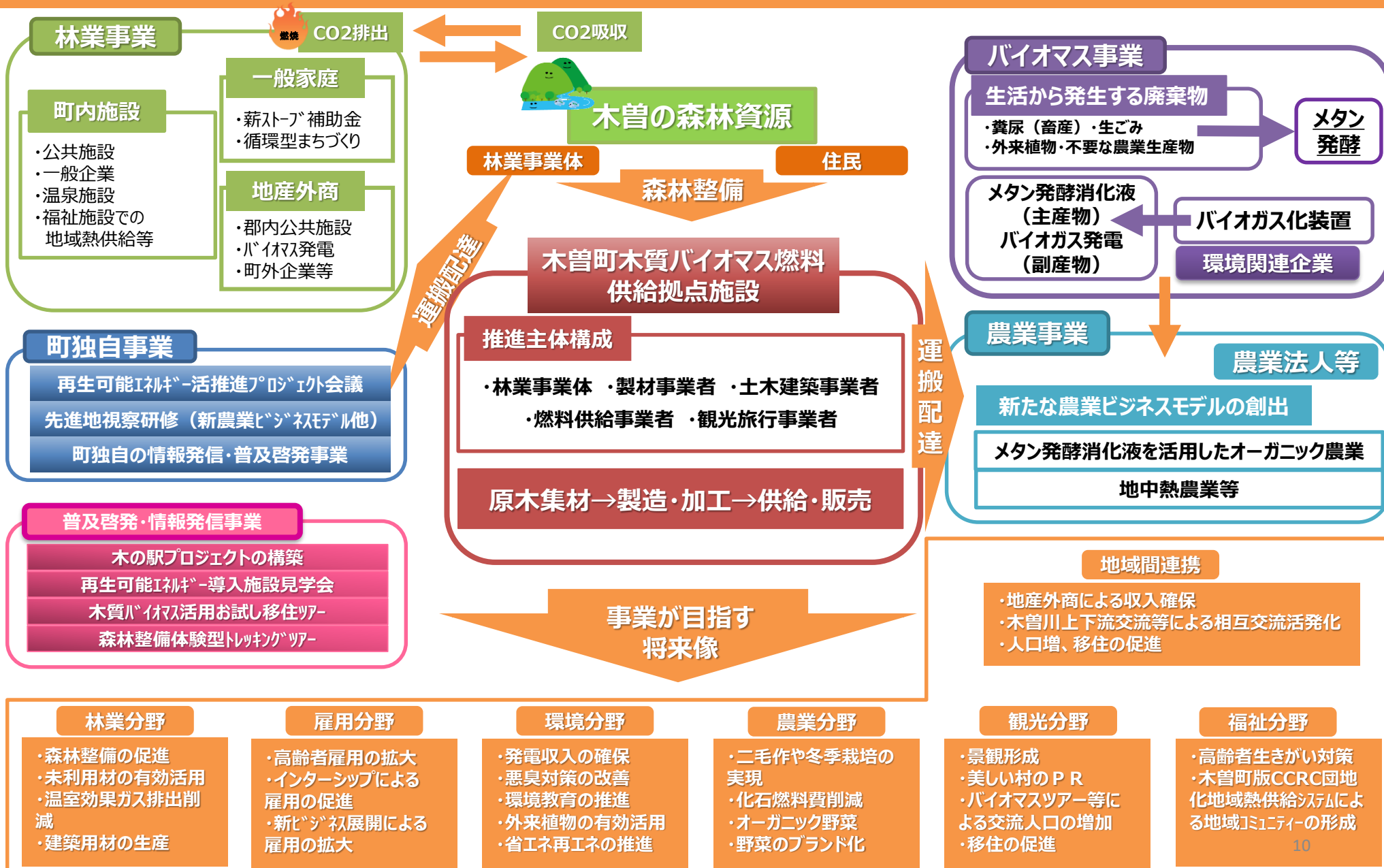
- 地域産材の利用拡大
 - 公共施設での利用促進
- 再生可能エネルギーの推進と連携
 - 木質バイオマスエネルギー利用の推進
- ウッドスタート宣言
- 木工事業所、製材所の整備
- 職人育成の推進
- 森林資源の有効活用
 - 森林セラピー等森林産業、観光の構築
- 町有林整備によるJクレジットの発行
- スマート林業の推進
- 森林情報デジタル化、森林クラウド導入、航空レーザー計測、森林資源解析（林相判読）



期待する効果

- 林業・木材産業の活性化と地域での雇用の創出
- 森林整備による豊かな森林資源への誘導
- 若者の就労機会の確保
- 定住の促進
- 再生エネルギーの有効活用
- 木材の地産地消による地域内経済循環の確立
- 木育等による豊かで穏やかな暮らしの確保
- 地球温暖化の防止
- 各政策連携による地域活性化など
- 森林整備ゾーン区分による経営計画等による森林整備の推進

木曽町地域資源循環型コミュニティ・フォレストリー推進事業



木曽町木質バイオマス燃料供給拠点施設

構成施設の名称	事務所兼販売所棟	製造加工保管施設棟	製造機械倉庫棟
構 造	木造平屋建 39.75㎡	SRC造平屋建 250.00㎡	SRC造平屋建 57.06㎡
管理者	木曽町 （運営：木曽町木質バイオマス事業協同組合）		



敷地面積 3,904㎡

【事業経過】

○木質バイオマスの推進のため、森林整備等により生じる未利用材の有効活用のための拠点施設として雇用創出を図り、林業事業者や地域住民が山の林地残材を出荷できる「木の駅プロジェクト」のしくみを構築し、地域資源循環の経済発展と持続可能で自立的な事業化を目指すことを目的としている。

○平成30年竣工、事業開始。

○原木集材、木質燃料の製造加工保管、計量、需要先への安定供給、運搬までトータルに行う拠点施設として整備。

○機械設備等 埋込式トラックスケール、切削破砕機、3 t 深ダンプトラック 等

○製造加工された切削チップは木曽町役場本庁舎、木曽町温水プール、おもちゃ美術館、林業大学校男子寮等の熱供給を行うチップボイラーに、また、薪は御嶽明神温泉やまゆり荘の薪ボイラーへ供給しており、その他生チップ等も供給、販売を実施している。



切削破砕機
(ウット・ハッカー-MEGA360DL)



製造加工保管施設棟



3t 深ダンプ車・計量トラックスケール



事務室兼販売所棟

木曽町役場新庁舎建設

- 木曽のヒノキ・カラマツ・サワラ等の無垢材をふんだんに使用した、木曽地域の伝統的工法の出し梁造り等を現代化して再現した、長大な木造(一部鉄骨)平屋建て
- 木曽ヒノキを使用するだけでなく、梁や桁等にからまつを多用し、町内民有林の3割を占めるカラマツを活かす、将来のカラマツ利用の可能性を示した建物
- 構造材→針葉樹(ヒノキ・カラマツ・サワラ) 家具等→広葉樹(床フローリング、カウンター、ベンチ、テーブル・椅子等)
- 地域資源を無駄なく利用する木質チップバイオマスボイラーを導入夏は熱交換を行い冷房に使用できる
- 各委員や地元の大工、木材関係者、木材寄附団体、園児から大学生等、非常に多くの町民等が関わった建物

木材使用量

- 全体使用量 **896.95m³ (約12,000本)**
 - うち町有林 185.48m³ (20.68%)
- 構造材(柱、梁等) **334.13m³ (約4,600本)**
 - うち町有林 136.96m³ (40.99%)
- 板材、その他羽柄材(壁材等) 562.82m³
 - うち町有林 48.52m³ (8.62%)
- 大黒柱2本、丸太柱1本、サワラ板材、ヒノキ構造材懸魚、応接会議室家具、衝立等を6団体から寄付



木曽町役場新庁舎：令和3年4月開庁

木曽町ウッドスタート

○ウッドスタート宣言・・・「日本グッドトイ委員会」が2011年から始めた「**一番初めのおもちゃを地元の木で作ろう！**」という事業
○木曽町は平成28年にウッドスタートを宣言（日本で24番目）

木曽町ウッドスタート宣言の狙い

第1の目的・・・木育推進

子どもたちが木のぬくもりに触れられるように！

第2の目的・・・プレゼントから感じる木曽を学ぶ
おもちゃが伝えるメッセージ（地元学）を親子で感じてほしい！

第3の目的・・・移住促進

赤ちゃん・子ども・子育てを大切にする町に！

第4の目的・・・木曽の産業振興・雇用創出
おもちゃ、器による木工産業の復活、強化。
産業振興による雇用創出

木曽馬のプル＆ プッシュトイ

木曽馬が山の中で木材を運ぶ姿（馬搬）をモチーフにしており、馬のくつわは実際の木曽馬と同様の巻き方をしています。



1歳

木曽義仲のお椀＆スプーン

木曽の木と職人で作った離乳食用のお椀とスプーンです。お椀は木曽義仲が使った二つ引き紋をモチーフにして、木曽ヒノキと朴の木を貼り合わせてデザインしています。



3カ月～



- ・木曽町誕生祝い品「トリタマ」
(木曽ひのき合板、ひのき玉、ひのきタマゴ)

※木曽に生息する鳥5種をデザイン。タマゴと玉が計20個入っており、見立て遊びや、転がし遊び、柄合わせなど、様々な遊びができるおもちゃ。

木曽おもちゃ美術館

各棟の名称	おもちゃのやかた (旧体育館)	であいのやかた (旧管理棟)	たいけんのやかた (旧体験棟)
構造	木造地上 2 F 776.25㎡	RC造地上 1 F 419.82㎡	木造地上 2 F 991.02㎡
指定管理者名称	特定非営利活動法人ふるさと交流木曽		



○木曽の木材産業の活性化を図り、木を通じて大人から子どもまでの世代を超えた交流の場を提供し、木育の推進と地域文化の振興に資するための施設

- ・木材産業の活性化に関する事業
- ・木育の推進に関する事業
- ・子育て支援や多世代交流に関する事業

○令和4年度開館。3棟で構成し、ふるさと体験きそふくしまを改築したもの。

○木質バイオマスボイラーを設置し、冬期間は熱供給を行う。

○「あそびと体験の学校」は、郷土食、草木染、木工等の体験メニューを提供する。

○「であいのやかた」は、館内で打った蕎麦等を食堂にて提供する。受付のほか、ショップ機能も併設。

○「おもちゃのやかた」入館者数：R4（R4.11.19～R5.3.31）17,119人／R5（R5.4.1～R5.10.31）31,000人



交流自治体限定版

長野県
木曽町

木育を 学んでみませんか？

木曽おもちゃ美術館で
保育士研修のご案内です！

●木育とは・・・

子どもをはじめとするすべての人が、
「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みです。
子どもの頃から木を身近に感じ、豊かな心を育みます。

ご参加いただいた方には
特製ロゴ入りポロシャツをプレゼント！

実施場所

ふるさと交流木曽おもちゃ美術館
(長野県木曽郡木曽町新開6959)

木曽おもちゃ美術館は、木を通じて大人から
子供までの世代を超えた交流の場を提供し、木
育の推進と地域文化の振興を図るため、令和4
年11月にオープンしました。

募集要項

目的：木のおもちゃや子どもの五感に
働きかけ、豊かな感性を育むと
言われています。

先生方が実際に手に取り、遊ぶ
ことで木のぬくもり、匂いを感じ、
それを子どもたちへ伝えることの
実践を学ぶことができます。

費用：1人3,500円

(昼食代・入館料・ポロシャツ代等)

対象：保育士 など

スケジュール

11:00～12:00 研修
12:00～13:00 昼食
13:00～16:15 研修
16:15～16:30 振り返り

担当：木曽おもちゃ美術館

0264-27-1011

<https://kiso-toyomuseum.com/>

学芸員(登録)122人

おもちゃのやかた



赤ちゃん木育ひろば
ゆったり遊べる赤ちゃん専用のお部屋



ごっこそば屋
木曾オリジナル。ピザ屋、すし屋もあります。

おもちゃのやかた



ごっこファーム
木曽地域や長野県の農作物の収穫ごっこができます。



グッド・トイひろば



しんりんひろば

たいけんのやかた



平成8年度に廃校となった旧黒川小学校の旧校舎。
木曽ならではの体験メニューが楽しめます。

であいのやかた



木のおもちゃや地域の名産品をそろえるショップや
食事ができるカフェ「四季」

木工振興拠点

施設名称	木工振興拠点
指定管理者名称	(株)木曽谷KOUSAKU
構造	木造 2F延面積381.33㎡（事務所2F）
その他	最高高さ7.215m・最高軒高4.692m



施設全景

○「木工振興拠点」は、地域産材を活用した木製品の開発、制作を行い、林業及び木材産業等の振興を図るための施設

- ・木工製品の開発・製作・販売に関する事業
- ・木工職人の育成に関する事業
- ・地域産材の利活用に関する事業
- ・木育推進に関する事業

○木曽町木工振興拠点施設条例R3.9.7議決

○指定管理者の指定（R4.4.1～R7.3.31）



ひのき合板

木工振興拠点の強み

最新の機械を使い最先端の設計システムにて図面を描き、オリジナルインテリア合板「木曽ひのき合板」をメイン素材として、木曽の木材を使った家具や什器、小物を製作しております。

最新の機械
(5軸のCNC)



- ・安全配慮
- ・最短工数
- ・ミスロス削減

最先端のシステム
(3DCAD)



- ・技術の蓄積
- ・最短工数
- ・ミスロス削減

オリジナル素材
「木曽ひのき合板」



- ・美しい素材
- ・環境価値
- ・地域貢献

合板とは

合板は丸太を「かつらむき」にした薄い板を貼り合わせて製作されています。
集成材や無垢材の歩留まりは30%程度ですが、合板であれば70%と高い歩留まり率が実現可能です。
また、国産針葉樹を利用するための製造技術が開発され、小径木や間伐材、曲がり材などの利用も可能です。



合板の構成 (5プライ合板の場合)

丸太そのままの体積を100%とした場合、
その70%まで利用が可能です。



表板
芯板
中板
芯板
裏板



5プライ (5枚合わせ)

丸太の丸い形状に沿って、原料となる薄い板（単板）をつくります。

木曽ひのき合板は11プライとなります。

木曽ひのき合板の特徴

「木曽ひのき合板」は当社が企画、合板メーカーにて特注生産した家具用の完全オリジナル合板です。
反り、ねじれ、収縮が少なくメンテナンスリスクが低い、天然の木目が美しい板です。

①機能

- ・家具製作に最適な特注厚み20mm
- ・片面が無節で凹凸の無い表面（裏面は節あり）
- ・ひのきの気持ちのいい香り

②見た目

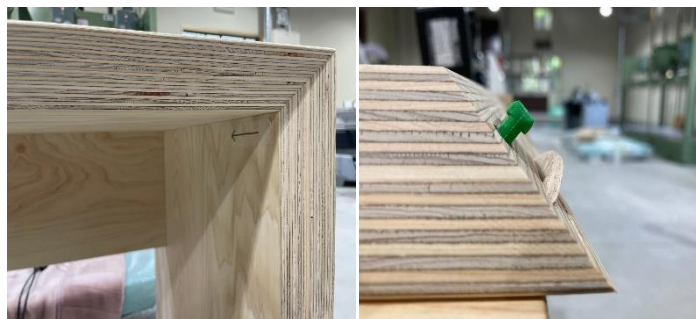
- ・内部まで厚みを統一した美しいストライプ断面
- ・片面無節で繋ぎ目の無い美しい木目

③価格・納期

- ・都度ご相談ください。



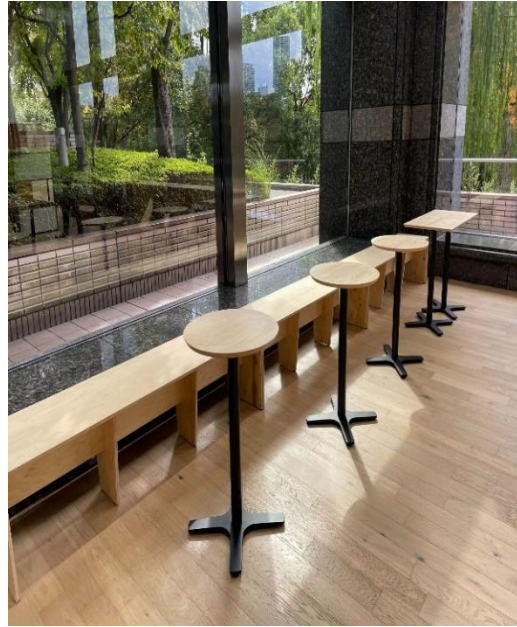
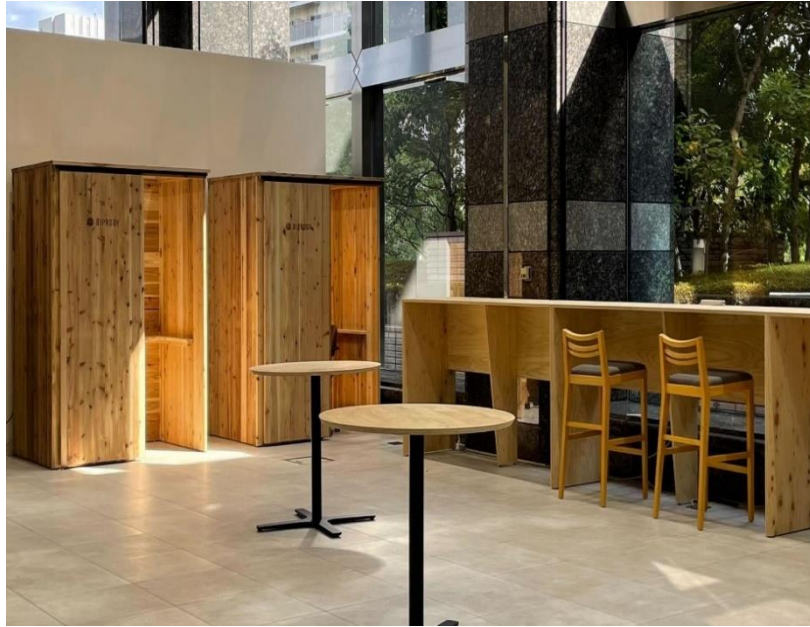
3×6サイズ（900×1800）のみ対応



厚みを統一したストライプ断面



染色ウレタン塗装
200%艶消し



・カウンターデスク、カフェテーブル、
ベンチ、収納キャビネット
(木曽ひのき合板)



・ワークブース「WOOBO」
(木曽ひのき合板Ver)



事例集



・カウンターデスク、デスク、
カフェテーブル（木曽ひのき合板）

※現場組み立てができる仕様で、
送料を下げ、搬入が容易となります。

ご清聴ありがとうございました

